

はじめに

鳥取大学教育学部附属養護学校長

大 石 純 悟

昭和53年4月、従来の附属小・中学校の特殊学級を母胎として附属養護学校が独立し開設されることになった。従って、今までの小・中学校の特殊学級での教育方法や教育内容に一貫性をもたせ、組織的、系統的な教育課程を編成する必要に迫られた。

そこで、昭和53年度には、研究経過のなかでも示しているように、教育課程を編成する場合に必要な目標を明示し、目標達成への過程を発達的、系統的に構成していくことにした。この際大切なことは、目標の設定とアプローチの方法である。目標設定によって教育内容は構成されることになるため、従来の教育目標と教育内容とに再検討を加えた。なぜなら、特殊学級時代の教育課程は、どちらかといえば軽度児を対象としたものであり、今後、入学入級してくる児童生徒については重度化や多様化が予想されるので、その実態に即応した目標や教育課程を用意しておく必要が感じられるからである。

上記の点から、本校の目ざす目標を「社会的自立」においた。この目標は、障害児たちが将来に向けて、社会なり社会生活から孤立していくのではなく、社会の一員としての役割を果たすための目標である。障害があっても障害の程度に応じて、社会人なり職業人なり、または家庭人として自立することがその目ざす目標である。ところで、精神薄弱児たちが社会的自立をしていくためには、身体的、精神的、社会的諸能力に多くを期待することは困難である。そのため社会的自立をしていく方法や過程として、4分野から自立の方向を考え、進めていく過程を考えてみることにした。すなわち、この4分野を基本的能力を伸長させる四本柱として樹立することにした。四本の柱とは、自立化、社会化、表現化、職業化である。

- (1) 自立化とは、身辺自立を中心としたもので、生活習慣の確立や自己を守るための健康、安全に関する方向づけである。
- (2) 社会化とは、社会生活に必要な規則や習慣を知って、これを守り、生活様式を身につけさせる方向づけである。
- (3) 表現化とは、意志表示をする方法である。自己表現をする方法としては、身体的表現、言語的表現、記号・図形的表現などが含まれる。
- (4) 職業化とは、職業人、家庭人として自立していくための過程であり、職業的態度、職業的技能の習得をそのねらいとするものである。

以上の4分野は、社会的自立をめざすアプローチとしての教育方法であるが、各分野はそれぞれ独立しながら、内容的には相互に関連しているものである。これら4分野の内容をすべての精薄児に、目標として達成させるというのではない。それぞれの障害の程度や特性に応じて自立する行動の型を段階的に発展させようとするものである。

本年度の研究への態度

本年度の研究テーマは、上記の4分野をふまえて、「表現化」を表面にうち出し、表現化に重点をおいた教育内容、指導方法について教育課程を編成することにした。

なぜ「表現化」に重点をおいたかは、われわれの生活なり学習のなかで、表現化されないものは、ほとんどないからである。言語的、数量的なものから生産的、美術・工芸的、音楽的なもの、すべて表現化されるものであろう。「表現」を伝達することと考え、社会的行動として考えるなら、われわれの生活や学習のなかで、最も重要な学習内容であると考えられるからである。ハーバート・リードの言葉をかりると

「表現とは伝達である。また伝達しようとする意図である。それはまた、他人を動かそうとする意思をもっていることによって社会的活動である。」

と考えるなら、われわれの人間関係、社会生活は、すべて伝達によって成り立っているといえよう。

ところで、表現 (expression) とは、もともと外へ押し出すことを意味するものであるが、精薄児の場合はいかに多くの意思内容があっても、その意志を表現する力、すなわち表現能力が欠如しているため、コミュニケーションが円滑に行なわれないことも事実である。特に思考力に欠如があるため、内容を適切にまとめて表現することは困難であるし、また人の話をよく聞いて理解する理解力にも問題がある。聞くことは理解することであり、理解することは表現することに関係する。従って精薄児には、よく聞き理解する力を開発するとともに、表現するための基礎的能力としての表現力の訓練が必要である。表現力が訓練や経験を通して身につける技能であるとするれば、精薄児たちにとっては、特別な教育方法や指導内容が必要となる。

このような観点から、本校では「表現化」の分野を全分野の中心として教育内容を構成し、指導の方法を研究の主題としたものである。この研究は、未熟のまま発表することになったが、全体的にも、部分的には再検討を加え、再構成する必要が今後に残されることになる。どうか、諸賢のご教示を得てより有効な教育内容として充実させたいと考えているため、懇切なご助言を得たいと思っている。

(昭 54. 10. 10)